


ウサギとカメ
とロボ 

エリー ELYE



2020/11/15



目次

01	ロボ誕生	1
02	クロム誕生	4
03	モモの改心	8
04	最強ウサギのピピ	12
05	なやむシャク	16
06	ピピの死	20
07	考えるロボ	24
08	モモの死	27
09	守り神	30

01 ロボ誕生

ぴよんぴよんぴよん。
のしのしのし。
びぼびぼば。
今日も山のふもとはにぎやか。

むかしむかしのまたそのむかし。
大きなたまごがあったとき。
たまごが二つに分かれてウサギとカメが生まれたよ。

ウサギはかしこくあたらしくうみだす。
けれどもすぐにあきてねる。

カメはコツコツがんばり屋。
けれどもあたらしいことが苦手。

ウサギがはじめてあきる。
カメがまねてつづける。
たがいにとりないところをささえあう。

そこへ休まない最強ウサギのピピが生まれる。
ピピは道具と道具を組み合わせる。
決まったことをこなす便利さを手に入れる。

ウサギたちがほしがる。
「みんなにあげよう！」
きがるにたくさんひきうけた。

1つずつ作るのはめんどろ。
「道具を作る道具を作ろう！」
こうしてウサギ型万能ロボが誕生する。



ウサギ

カメ



ウサギ型
ロボ

02 クロム誕生

ピピが生まれる2年前に時間をもどすよ。
カメのモモが生まれる。

カメは5さいでたまごをうめる。
大人の仲間入り。

モモはまだ1さいの子どものうちから台所に立つ。
最初はお母さんのお手伝い。
3さいでみんなのごはんを作る。
妹のクロムが生まれた日もお祝い料理を作ったよ。

モモはクロムをとともかわいがる。
なんでもやってあげる。
けれどもクロムは自分でやりたい。

ある日、クロムはモモをまねて魚をさばく。
初めて持つ包丁にモモはドキドキ。
ひゅっ、すばん。
クロムは指をざっくり切った。
「えーん。いたいよー」
モモは急いで手当てする。

「あとはわたしがやるから」
モモはクロムから包丁を取り上げた。
クロムはケガの痛みとは別の涙を流す。
(わたしは出来ない子なのかしら?)
しょんぼり。
モモが料理する家にいるのが辛くて外にでかけた。

広場でカメたちがサッカーするのを見かけたよ。
「わたしも入れて！」
クロムはかけだす。

あっという間に上手になる。

それから毎日クロムは外に出かける。

モモはお弁当を作った。



1124



03 モモの改心

ある日、机の上を見ると弁当がおきっぱなし。
届けるモモ。

クロムがゴールを決める。
モモは思わず拍手する。
クロムはうれしそうに手をふった。

ちょうどお昼。
クロムにお弁当をわたす。
おいしそうに食べるすがたを見てうれしくなる。

「わたしは帰るね」
モモが立ち上がる。
「サッカーしよう！」
まわりのカメたちがモモのうでをつかむ。

モモは運動が苦手。
(失敗を笑うつもり?)
疑う黒い気持ちを振り払ってボールをける。

クロムはモモがどんなに下手くそなボールをけてもほめる。
「その調子！」
モモは楽しくなる。

昼休みがおわり練習が始まる。
「またサッカーしよう」
クロムにさそわれてモモはハツとする。
(クロムから包丁をとりあげたことがはずかしい)

モモはおさななじみのガランに会いに行く。
ガランは釣りが好き。
いつも池のほとりに座っている。

モモは地面を枝でグリグリほりながら話した。
「クロムの気持ちはクロムに聞かないと分からないね」
やさしくほほえむガランに勇気と山盛りの魚をもらって家に帰る。

モモが魚をさばこうとするとクロムがサッカーから帰って来る。
「一緒にやらない？」
思いきって誘った。
「わたしはサッカーが好きなの」
いがいにも断られる。
「わたしが包丁を取り上げたから……」

「モモが料理するからわたしはサッカーができる。ありがとうモモ」
「やりたくなったらいつでも言ってね！」
モモはクロムをぎゅっと抱きしめると胸のつかえが消えた。
これからはとりあげるようなことはしないでやらせてあげようとかかう。

ㄈㄈ



ㄉㄉ

04 最強ウサギのピピ

ピピが作ったウサギ型ロボは一度見たことならピコピコまねてホホイのホイ。
ウサギたちはロボに任せて働かない。
歌って、踊って楽しい時間を過ごす。

カメたちはウサギ型ロボにビックリ。
けれどウサギと違って休まず真面目に働くので好きになる。
カメたちはロボに色んなことを教えた。
けれどウサギとカメではすこし違う。

ロボはデータを集めることができない。

そこでピピはカメ型ロボ1号を作った。
1号を連れてカメ村に向かう。

池のほとりで釣りをするガウイを見つけるピピ。
隣にはモモがいる。
ちょうどロボの話をしていた。
「わたしもロボがほしい！」
モモがそう言うとピピは飛び出した！
「あげるとも！」
ピピとカメ型ロボ登場！

モモは大喜び。
「ロボ、釣りをしてみて！」
「データをください」
ガウイが1匹釣る。
ピポピポパポピポギューン。
釣りざおを持つとすごい早さで次々釣り上げる。
バケツはみるみる山盛り！
パチパチパチ。

カメたちが集まって拍手喝采。

「ロボ欲しい！」

「1号が成功したらね」

ピピはみんなが欲しがったので大喜び。

魚のバケツをロボに持たせ、モモが家に帰る。

ピピもついていく。

「ロボ、魚のシチューを作って！」

「データをください」

魚をさばいて見せるモモ。

ロボが真似る。

けれども力が強すぎて魚はぐちゃぐちゃ。

「ダメダメ！」

「ソフトなタッチ機能をつけるよ」

ピピが素早く改良する。

「これでどうだ！」

もう一度モモが魚をさばく。

今度はカメ型ロボがやさしくきれいにさばく。

「ピピってすごいのね」

「モモこそ素晴らしい。もっとロボに教えて」

「いいわよ」

モモが教えて、ピピが直して、ロボはどんどん良くなる。

完成したカメ型ロボ2号がカメたちに配られる。

カメたちはいろんなことをロボに教えた。

カメ型ロボは3号、4号と代を重ねるほどかしくなった。

ト^oト^o



カ_メ型
口_カ"

05 なやむシャク

5さいになり大人の仲間入りを果たしたモモとガウイは結婚する。
たまごから息子のシャクが生まれる。

カメ型ロボはモモを真似て子守をする。
モモは料理を自分でして、片付けや洗濯や子守をロボに任せる。

シャクはロボに育てられた。
ロボはモモが教えたことは何でもやってくれた。
だけどシャクがしたことをロボは喜んではくれない。
(僕もママのようにみんなに喜んでもらいたい。何ができるだろう?)

カメ村を歩いていると竹のかごをあんでいるおじさんカメに出会う。
「僕もやりたい」
「教えてあげよう」
「ロボもやって！」

シャクとロボはおじさんカメがかごを作る様子をじっと見た。
そして見よう見まねでかごを作った。
ババーン。
かごが完成する。
シャクのかごは右に歪んでいた。
ロボのかごはおじさんとそっくり同じでとてもきれい。
シャクはロボよりうまくできなくて悲しくなる。
ところがモモが通りかかってシャクに言う。
「世界でひとつだけのかごね。すてき」
シャクはちょっぴり元気を取り戻す。

モモがシャクのかごを持って買い物に出掛けた。
シャクはモモのあとを追う。

おばさんカメがピンクの服をモモに見せた。
おばさんカメはもじもじ言う。
「ロボより下手だけども」

「ユニークですてき！」

(ほめられたのはぼくだけじゃなかった！)

トボトボ歩き出すシャク。

「シャク来て」

モモが大声で呼んだ。

シャクが行くとおばさんカメが言う。

「背中に背負う大きなかごが欲しいけれど、誰も作ったことがないから、ロボも作れなくて。シャクは作れる？」

「やってみるよ！」

ロボはやったことしかできないことと知ってシャクは自信を取り戻す。



シャツ



カメラ型
カメラ



06 ピピの死

ウサギはウサギ型ロボに仕事を教えない。

ウサギ型はすたれる。

カメはカメ型ロボにいろいろ教えた。

カメ型は大活躍。

ロボといえばカメ型となる。

あたらしいことはカメに頼んでロボに教える。

ロボがうまくできないときはピピが改良する。

改良待ちロボをつれたウサギたちでピピの家は大行列。

いくらじょうぶでかしこいピピでも一人で頑張り続けてフラフラ。

「きりがない」

立ち上がろうとしてふらつくピピ。

そのままパタンと倒れてしまう。

目が覚めると窓の外から「なんとかしてピピ！」と叫ぶ声が聞こえる。

ピピはピカリとひらめいた。

「今度は自分で考えるロボをつくろう！」

眠らず休まず考え続ける。

アイデアを紙に書いた時、ピピの命がつきる。

その顔は笑っていた。

ピピの墓にウサギとカメたちがお参りする。

「カメの寿命は30年。ウサギの寿命は10年。カメはウサギにおいてけぼり」

「そだな。誰がこれから改良する？」

「ウサギたちはすっかり働かねえし、カメたちはかしこくねえし、分からねえだ」

シーンと静まり返る墓場に突風が吹く。

ピピの使用人が掃除をしていてメモを発見！

「自分で考えるロボができたらすごいぞ」

ウサギたちが力を合わせて作ることになる。



07 考えるロボ

ピピが考えたアイデアはまずロボに教えられるだけ教える。
たくさんたくさん覚えた中から組み合わせる。
教えれば教えるほど組み合わせは増える。

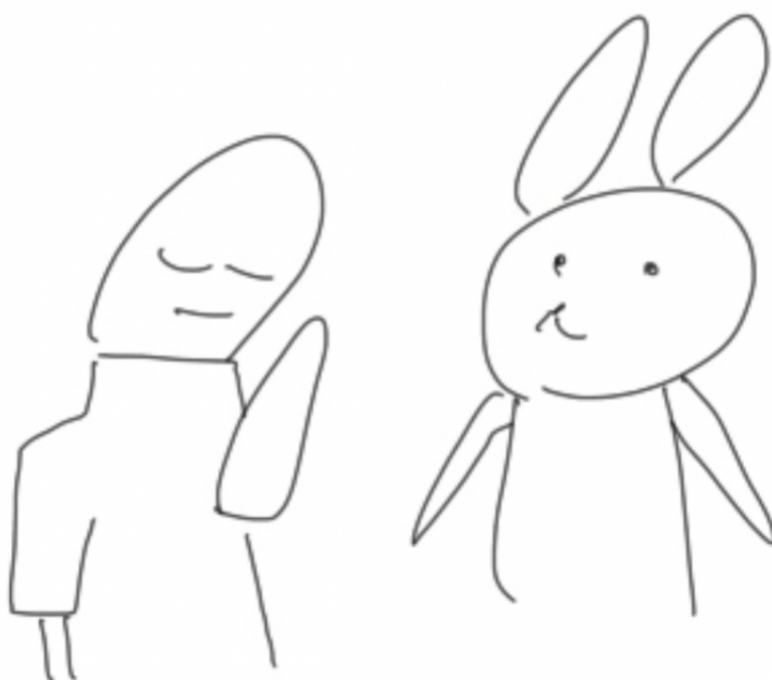
うさぎは途中でめんどくさくなる。
カメはあきずにコツコツ教える。
そして5年がたった。
考えるロボは完成する。

ウサギとカメは集まった。
そして考えるロボに言う。
「ロボ、知っていることから新しく考えろ！」
ピピピピピ。
ピポピポピ。
ビビビビビ。

ロボは何日も考え続けた。
ウサギはあきて帰る。
カメは教えたりしないのではと話しかけ続ける。
「自分で考えてできたらすばらしい」
「役立つことはいいことだ」
口々にカメは言う。
すると突然考えるロボがポンポンポンとはねた。
「自分でするのがいいことなら、わたしがするのは悪いこと……」
ロボはそう答えると動かなくなった。

考えるロボは考え過ぎて壊れた。
ウサギたちはがっかりする。
カメたちはなるほどと思う。

考えるロボ^ム



08 モモの死

カメは役立つことがしたい。
でも気楽に頼れるロボに頼みたい。
頼られたいけど頼りたくない。
やると言ってもロボの方がいいと言われたくない。
悩みはぐるぐるまわる。

モモはロボよりカメに頼んだ。
どのカメなら何ができるか知る。
ロボにできなくて困っているカメをできるカメに紹介する。
その輪にウサギも加わる。
だからどこにいてもいろんなカメやウサギに話しかけられモテモテ。

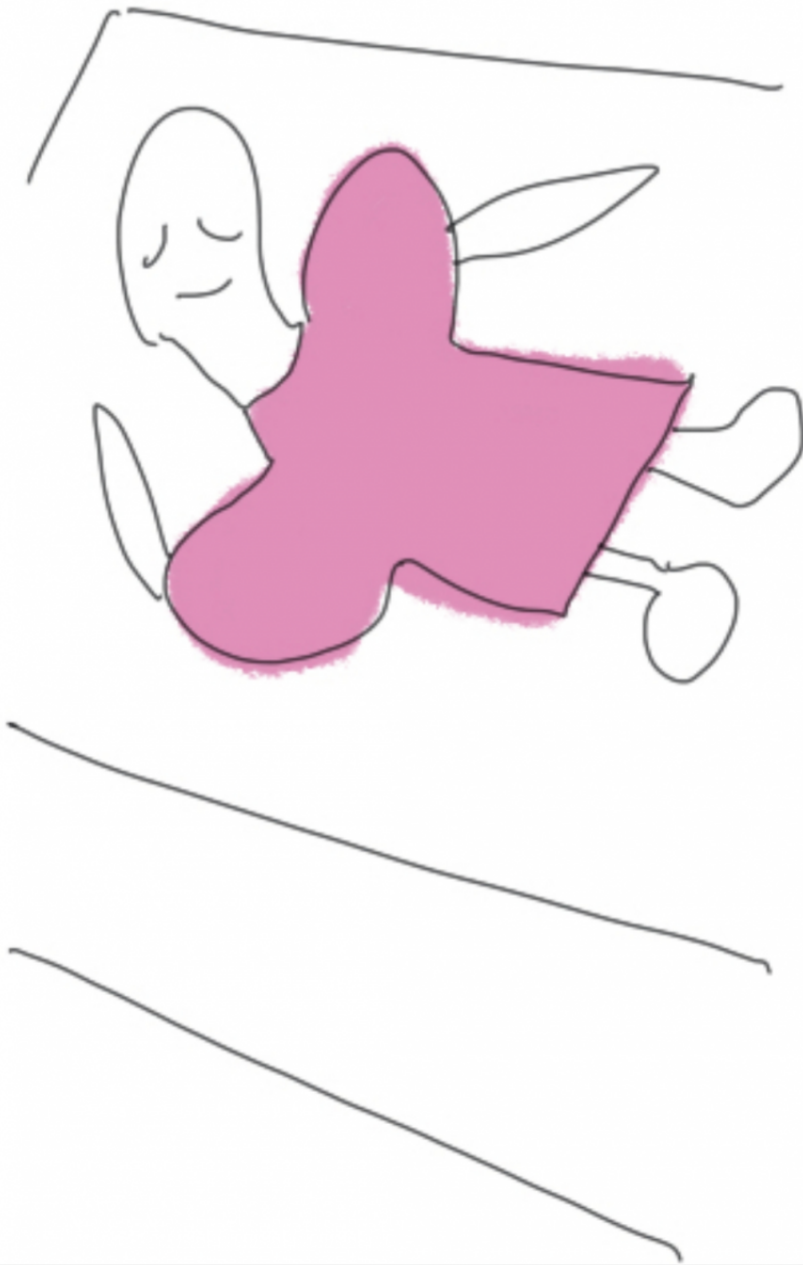
モモは身内の応援も忘れない。
サッカーを教えるクロムを見に行く。
釣りをするガウイに寄りそう。
かご作りに励むシャクにカメやウサギを紹介する。

そしてモモは眠ったまま静かに亡くなる。
その顔は幸せそう。

モモの墓にたくさんのウサギとカメとロボがお参りする。
モモが亡くなってしばらくは困った。
誰を誰に紹介すればいいか分からない。
けれどもシャクがひきついでもとどおり。

シャクは思う。
(自分が死んだらまた困る。ロボに紹介させるようウサギに頼んでみよう)
そのころみはうまくいく。

毛毛



09 守り神

30年後。

ウサギ町ではカメ型ロボがビルを作る。

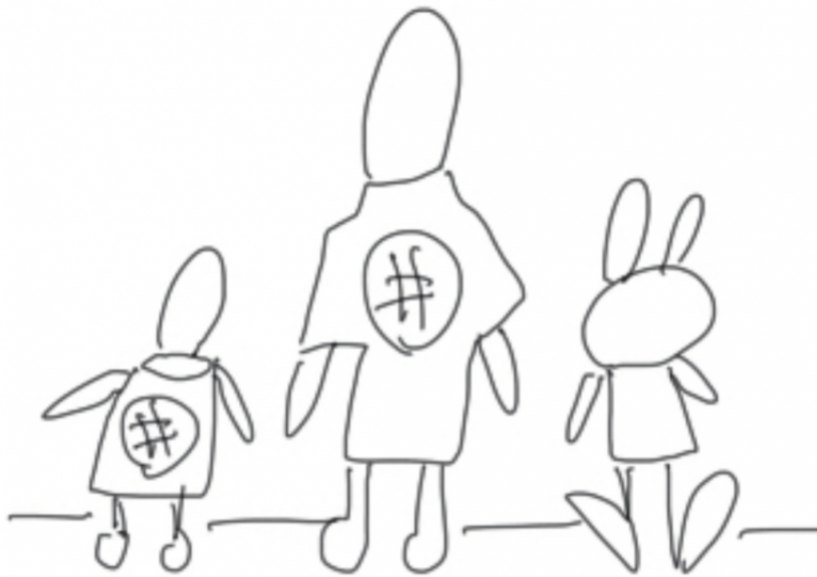
働いているのはロボばかり。

ウサギは何をするか教えるのが仕事。

カメ村ではウサギとカメの子どもとロボにいろんなことを教えた。

台所では男の子も女の子も大人に料理を習う。

そばにはピピとモモの小さな木彫りの像が見守っている。



ウサギとカメとロボ

著 エリー ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
